

2015年9月30日/稲場雅紀(動く→動かす)

## 国連ポスト2015 採択サミット 参加報告(速報)

### 1. 「我々の世界を変革する」合意文書採択!

- (1) サミット日時・場所: 9月25-27日、ニューヨーク国連本部
  - (2) 国連加盟国が参加、初日(25日)午前中に合意文書「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択。
  - (3) サミット内容: (3層構造)
    - a) プレナリー(全体会)では、各国首脳がスピーチ。
    - b) 参加型で6つのテーマの分科会を開催。
    - c) 国連本部内部や周辺で、膨大な数の「サイド・イベント」開催。
- ※サイド・イベントの意味
- ・各国が課題への新しいイニシアティブや政治的コミットメント等を示すのに活用。(日本やドイツの「UHC」イベント等)
  - ・国際機関等が自分の課題の重要性を各加盟国に浸透させたり、「チャンピオン国」を作るのに活用。
  - ・市民社会が関係課題の重要性や市民社会の主張、イニシアティブを発表したり、加盟国や国際機関の積極的な取り組みを促すのに活用。
- (4) 日本の市民社会の参加
    - ・環境系、開発系、その他合わせて20名前後が参加(NGO、一部研究者等も含む)。連携して取り組み。
    - ・環境系から1名(古沢広祐・JACSES 代表理事)、開発系から1名(稲場雅紀・動く→動かす事務局長)が「日本政府代表団顧問」として参加。

### 2. 「我々の世界を変革する」の意義

- (1) <社会の大規模な変革、移行>が必要であることを強調
    - ◎あらゆる形態・規模の貧困をなくす(ゴール1)
    - ◎国内外の不平等を軽減する(ゴール10)
    - ◎持続可能な消費・生産パターンを構築する(ゴール12)
    - ◎平和、透明性、アカウンタビリティ、能力のある行政機構の構築(ゴール16)
- ※現代世界は「持続不能」→「持続可能な世界への移行」(=移行プロセスとしての現代と開発目標 ※MDGsとの違い)
- (2) 現代のパワーバランスの変化を反映したプロセス
    - ◎「ポスト MDGs」を目指した先進国
    - ◎「持続可能な開発」と「ポスト MDGs」の統合を目指した中南米、新興国(コロンビア、ブラジル、メキシコ等)
    - ◎2013年=せめぎあいの末、「SDGs」が主流化→力を合わせた結果としての「SDGs」
  - (3) 「貧困をなくす」アプローチの変革
    - ◎MDGs=貧困を半減、数値で測定→「やりやすいところからやる」→「取り組みが難しい半分」が残っている(エボラ・ウイルス病、イスラミック・ステート(アッダウラ・アル=イスラミーヤ)等)
    - ◎「誰も取り残さない」(Leave no one behind)、「最後の人を最初に」(Put the last first)

### 3. では国際社会は本当にやる気があるのか

- (1) 残念な「第3回開発資金国際会議」  
(7月16-19日、エチオピア)
  - ◎成果文書は「民間資金」依存、新たなイニシアティブなし

- ・国際連帯税への記述なし
  - ・開発のための国内財源が大事といっているのに、国際的な租税協力の新たな枠組みはできず
  - ・民間資金を最貧国の最貧層に届ける方法についての議論なし
- ⇒「誰も取り残さない」SDGs を実現する方策は、実はない。

※日本政府の立場

(2)「我々の世界の変革」の「実施手段」と「フォローアップ」の弱さ

◎「実施手段」=宣言に比べて貧弱

◎「フォローアップ」=指標、HLPF(高レベル政治フォーラム)を活用したレビュー=まだ決まっておらず

◎来年の3月に向けて、指標およびレビューの議論をしっかり進める必要あり。

(3)国内実施

◎スウェーデン、インドネシア等:リーダーシップの下で効率的な国内実施体制の確立を模索

◎韓国・インドネシア等:政府の情報公開、ゴール 16 に積極的。

#### **4. 日本の SDGs の実施の決め手は市民社会**

(1) 来年の G7 サミット:SDGs が包括的な形で議題になるか?

⇒政策提言が必要

(2) 日本政府の G7 へのセレクトティブ・アプローチ

◎「女性・ジェンダー」、「保健(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、保健緊急事態へのガバナンス)、防災、等

(3) 国内実施体制の確立

◎このまま⇒援助:外務省、環境:環境省、で終わり

・国として取り組む体制を作り、市民社会が積極的に参画することが必要。

(3) 日本の市民社会として実施したこと

◎G7 サミットに向けたブリーフィング・戦略会議(9月 25 日、ヴァンダービルト YMCA 会議室)

◎4者共同記者ブリーフィング(9月 27 日):グローバル・コンパクト、外務省、アカデミア(環境科研費 S11 蟹江チームリーダー)⇒国際的・国内的な触媒効果を実現

以上